

内蔵 DAT72 ユニートを Windows Server 2008 でご使用になる場合

このたびは、弊社の内蔵 DAT72 ユニートをお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。

本書は、「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書」、「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書、内蔵 DAT72 ユニート(ドライブ ケージ付)取扱説明書」(以降、「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書」)を参照するにあたって、Windows Server 2008 に関する記述を補足するための説明書です。本書をご覧になる際には、「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書」も併せてご参照ください。

2008 年 7 月
富士通株式会社

▶ はじめに

- ご使用のサーバ本体によって、Windows Server 2008 の適用可能時期が異なります。
詳しくは弊社ホームページ内「PRIMERGY の Windows 情報」の「Windows Server® 2008 動作確認情報」(以下 URL)を参照してください。
<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/os/2008/>
- 内蔵 DAT72 ユニートを Windows Server 2008 でご使用になる場合は、Windows Server 2008 に対応した専用のバックアップソフトウェアが必要になります。
バックアップソフトウェアにつきましては、弊社ホームページに掲載されております「バックアップ(装置・OS・ソフトウェア)適用一覧」(以下 URL)を参照してください。
<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/tec.html?from=menuItem-note>

▶ ■ 製品の呼び方

「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書」掲載されている「■ 製品の呼び方」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise	Windows Server 2008	Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard (64-bit) Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise (64-bit)	Windows Server 2008 (64-bit) [注 1]	
CA ARCserve Backup r12 for Windows	CA ARCserve Backup	

[注 1] 本書内で特にことわりがない箇所は、Windows Server 2008 に含まれます。

▶ 1-3. デバイスドライバのインストール

「内蔵 DAT72 ユニート取扱説明書」に掲載されている「1-3. デバイスドライバのインストール」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

POINT

Windows Server 2008 で「新しいハードウェアが見つかりました」「HP C7438A USB Device のドライバソフトウェアをインストールする必要があります」と表示された場合は[キャンセル]をクリックしてください、その後、本書の手順にしたがってデバイスドライバをインストールしてください。

➤ 1-3-1. USB MSC (Mass Storage Class)ドライバのインストール

「内蔵 DAT72 ユニット取扱説明書」に掲載されている「1-3-1. USB MSC (Mass Storage Class)ドライバのインストール」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

■ Windows Server 2008 の場合

1. Administrator 権限で Windows Server 2008 にログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
3. 「コントロールパネル」ウィンドウの「デバイスマネージャ」をダブルクリックします。
4. 「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」をダブルクリックし、「USB 大容量記憶装置」をダブルクリックします。
5. 「ドライバ」のタブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面が表示されます。
「コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します(R)」をクリックします。
7. 「参照」ボタンをクリックし、コピー元に本ドライバを復元したフォルダを指定して、「次へ」をクリックします。
 - ・スタートアップディスク を使用する場合
 - Windows Server 2008 の場合
[DVD-ROM ドライブ]: DRIVERS¥Tape¥usbdat¥Win2008¥i386
 - Windows Server 2008 (64-bit) の場合
[DVD-ROM ドライブ]: DRIVERS¥Tape¥usbdat¥Win2008¥x64
8. 「ドライバソフトウェアが正常に更新されました」というメッセージが表示されます。
9. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面の「閉じる」をクリックします。
10. デバイスマネージャに「HP USB Mass Storage Device」として表示されます。

➤ 1-3-2. DAT72 drive のデバイスドライバのインストール

「内蔵 DAT72 ユニット取扱説明書」に掲載されている「1-3-2. DAT72 drive のデバイスドライバのインストール」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

■ Windows Server 2008 の場合

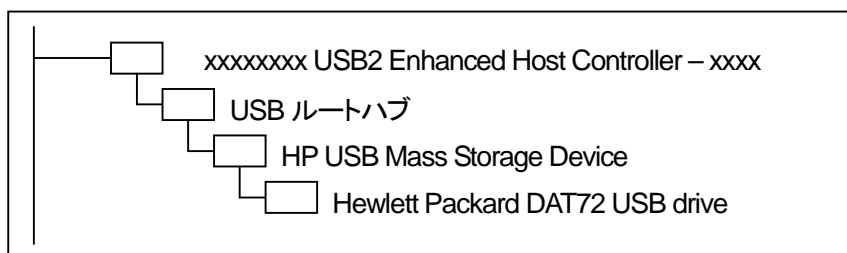
1. Administrator 権限で Windows Server 2008 にログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
3. 「コントロールパネル」ウィンドウの「デバイスマネージャ」をダブルクリックします。
4. 「[ほかのデバイス]または「テープドライブ」をダブルクリックし、「HP C7438A USB Device 」をダブルクリックします。
5. 「ドライバ」のタブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
6. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面が表示されます。
「コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します(R)」をクリックします。
7. 「参照」ボタンをクリックし、コピー元に本ドライバを復元したフォルダを指定して、「次へ」をクリックします。
 - ・スタートアップディスク を使用する場合
 - Windows Server 2008 の場合
[DVD-ROM ドライブ]: DRIVERS¥Tape¥dat72¥drivers¥WinNT¥Win2008¥i386
 - Windows Server 2008 (64-bit) の場合
[DVD-ROM ドライブ]: DRIVERS¥Tape¥dat72¥drivers¥WinNT¥Win2008¥x64
8. 「ドライバソフトウェアが正常に更新されました」というメッセージが表示されます。
9. 「ドライバ ソフトウェアの更新」画面の「閉じる」をクリックします。
10. サーバを再起動します。

➤ 1-3-3. デバイスドライバの確認方法

「内蔵DAT72 ユニット取扱説明書」掲載されている「1-3-3. デバイスドライバの確認方法」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

■ Windows Server 2008 / Windows Server 2008 (64-bit)

1. Administrator 権限で Windows Server 2008 にログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
3. 「コントロールパネル」ウィンドウの「デバイスマネージャ」をダブルクリックします。
4. 「デバイスマネージャ」のメニューバーより、「表示(V)」→「デバイス(接続別)(V)」の順にクリックします。
5. ツリーを展開し、「HP USB Mass Storage Device」、「Hewlett Packard DAT72 USB Device」を確認します。



➤ 1-5. バックアップジョブの設定(自動排出の設定)

「内蔵DAT72 ユニット取扱説明書」掲載されている「1-5. バックアップジョブの設定(自動排出の設定)」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

■ CA ARCserve Backup

1. バックアップジョブの作成/編集時、バックアップマネージャで[オプション]ボタンをクリックします。
2. 「操作」タブの [バックアップ終了後のメディアのイジェクト] を「メディアのイジェクト」に設定します。

➤ 1-7. デバイスドライバおよびバックアップソフトウェアの設定・注意事項

「内蔵DAT72 ユニット取扱説明書」掲載されている「1-7. デバイスドライバおよびバックアップソフトウェアの設定・注意事項」について、以下の内容を追加して読み替えてください。

■ デバイスドライバについて

本製品の Windows Server 2008 用のデバイスドライバの最新版は、インターネット情報ページ (<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>)内の『ダウンロード』→『ダウンロード検索』でサーバの製品名および型名を選択し、カテゴリに「バックアップ装置」を指定して検索し、ダウンロードしてください。デバイスドライバは最新版をご使用されることをお勧めします。

■ CA ARCserve Backup の設定について

・ リムーバブル記憶マネージャ(RSM)について

- ・ Windows Server 2003 で 使用する場合
 - ・ Windows Server 2003 で CA ARCserve Backup を使用する場合は、デバイスドライバのインストール後に、CA ARCserve Backup 「デバイス環境設定」で「デバイスの有効／無効 (RSM) 対応」オプションを選択し、リムーバブル記憶域の管理を無効(チェックを付ける)にしてください。
 - ・ CA ARCserve Backup をアンインストールする際は、事前に「デバイス環境設定」で「デバイスの有効／無効 (RSM) 対応」オプションを選択し、リムーバブル記憶域の管理を有効(チェックを外す)にしてください。
- ・ Windows Server 2003 x64 / Windows Server 2008 で使用する場合
 - ・ Windows Server 2003 x64 、Windows Server 2008 で CA ARCserve Backup を使用する場合は、デバイスドライバのインストール後に、[コンピュータの管理]—[記憶域]—[リムーバブル記憶域]—[ライブラリ]より、『Hewlett Packard DAT72 USB drive』を右クリックし、「プロパティ(R)」の [全般]タブを表示させ、ドライブを無効（「ドライブを有効にする(E)」のチェックを外す）にしてください。
 - ・ 尚、CA ARCserve Backup をアンインストールする際は、事前に [コンピュータの管理]—[記憶域]—[リムーバブル記憶域]—[ライブラリ]より、『Hewlett Packard DAT72 USB drive』を右クリックし、「プロパティ(R)」の [全般]タブを表示させ、ドライブを有効（「ドライブを有効にする(E)」のチェックを付ける）にしてください。

■ 修理などで本製品を交換したあとの CA ARCserve Backup の再設定について

修理などで本製品を交換した場合は、CA ARCserve Backup の設定について、次の項目を確認してください。

確認項目	確認内容
デバイスの有効／無効 (RSM対応)	<ul style="list-style-type: none">・Windows Server 2003 で使用する場合 「デバイス環境設定」の「デバイスの有効／無効 (RSM) 対応」オプションで、リムーバブル記憶域の管理が無効(チェックが付いている)か確認してください。・Windows Server 2003 x64 / Windows Server 2008 で使用する場合 [コンピュータの管理]—[記憶域]—[リムーバブル記憶域]—[ライブラリ]の『Hewlett Packard DAT72 USB drive』の「プロパティ(R)」で、ドライブが無効（「ドライブを有効にする(E)」のチェックが外れている）か確認してください。

— 以上 —